



事業 計画

長野市 食の循環システム構築事業

経済的困窮を食の循環で支援するためのプラットフォーム
困窮者支援を行う県内団体へ食品製造企業等で構成する
「食の循環システム検討会議(仮)」を設置し、長野県内の
困窮者支援の課題を把握するとともに、食品ロス削減のた
めの仕組みづくり、支援者と企業双方が活用可能なクラウ
ドシステムを構築する

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

担い手不足に悩む地元農家と協力して、様々な課題を抱える人たちが、わさび田を整備、荒廃農地で生薬栽培を行うことにより人々の生きる自信を育てるとともに、地元産業の保全に貢献する。

安定した収入の確保を目指し、多様性のある働き方を提案し、「新しい雇用のカタチ」にチャレンジする。

飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット

ー誰もがわいわい集まって人形劇をつくることを支援するー

人形劇という文化財の持つ特性を生かしたコミュニティを基盤とし、年齢や障害の有無に関わらず、人形劇に関心を持つ誰もがここに集まり、上演を目指し、制作に打ち込める場をつくる。

長野市 ICT学習支援官民協働事業

千曲市に学習困難な子どもたちの居場所づくりを行い、ICTを活用した学習支援を行うとともに、安心して居ることができる場所を作る。

多機関連携によって引きこもりの若者への職業あつせんや不登校改善を行い、その仕組みをICTポータルサイトにより全国へ発信する。

小海町 生きづらさのある市民の居場所づくり

JR小海線小海駅駅舎内に多様な主体の居場所を生み出す。

- ・中間教室の機能
 - ・小海町在住の児童・生徒を巻き込んだ居場所カフェ
 - ・不登校からひきこもりの状態にある全世代の当事者を対象とした自立支援

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業

シイタケ栽培を核とした就労前準備支援。

地域資源、社会資源との連携を図りつつ、シイタケ栽培を通して当事者の状況に合わせた就労準備訓練、就労訓練プログラムの実施と地域企業での就労体験、就労訓練を合わせて行うことでの一般就労向けた支援と困難を抱える若者や家族が安心して居られる居場所づくりをしていく。

伊那市 子どもの居場所とネットワーク推進事業

上伊那地域の様々な団体とネットワークを組み、子どもの居場所の立ち上げ支援・相談窓口を設置するとともに、子ども・若者の成長を支える地域力を強化していく体制やシステムをつくる。

事業 計画

長野市 食の循環システム構築事業

経済的困窮を食の循環で支援するためのプラットフォーム

食の循環システムの見える化

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

農福連携による地域共生
(農家支援、ワサビ、生薬など)

飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット

人形劇による子ども若者支援

長野市 ICT学習支援官民協働事業

ICTを活用した学習支援

小海町 生きづらさのある市民の居場所づくり

駅構内の多様な居場所
(引きこもり、障害者、医療関係支援)

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業

農福連携による自立促進
(しいたけ栽培)

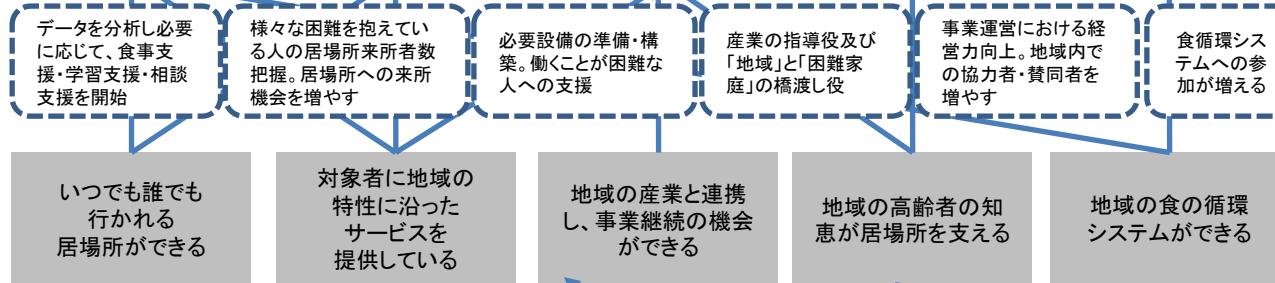
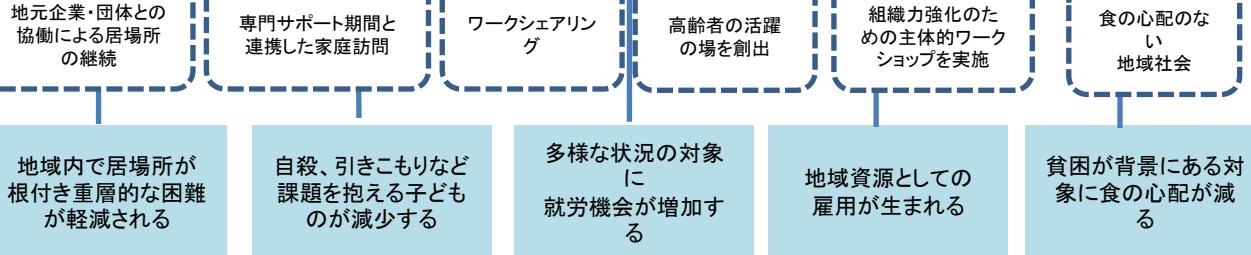
伊那市 子どもの居場所とネットワーク推進事業

居場所づくりと子ども支援ネットワーク構築



地域支援と地域資源の連携で若者層の自殺、引きこもり、学校への行きしぶりを減らす

困難を抱えたこども若者が孤立を感じない地域・社会になる



長野県は若年層の自殺率は全国一、引きこもりや学校への行きしぶりなどのこども若者の困難が生じている。

資金力、事務力、運営力を持つ
バックボーンオーガナイザーになる

次のステップへのエコシステム構築
連携セクターの意識改革

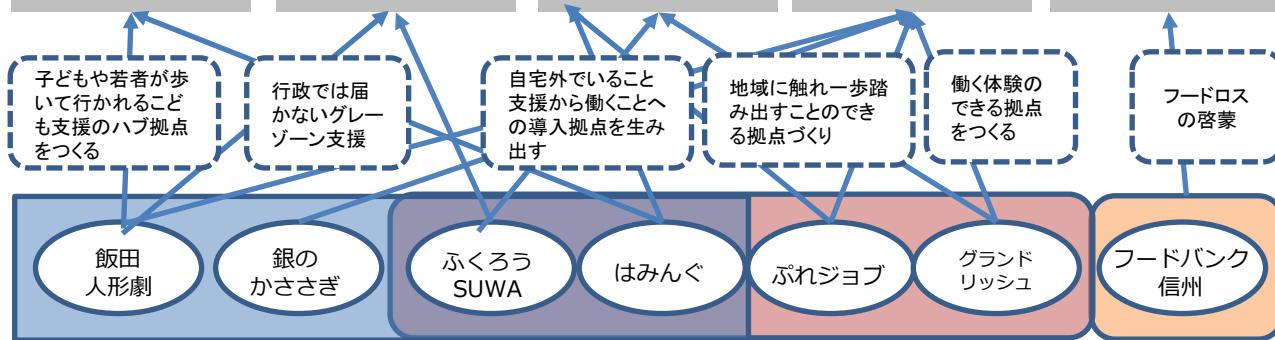
いくつもの居場所
(拠点)をつなげる
見える化
(広報・資金)

事業継続への道筋を一緒に考える
・足りない専門スキルを分析
・経営分析

各地域における
支援体制を構築する

実行団体に
対する連携・
新たな資金提供

資金分配
団体により
地域支援
団体との
コミュニケーション、連
携先の選定



しうがい者

みらい基金

状況 課題

長野市 食の循環システム構築事業

経済的困窮を食の循環で支援するためのプラットフォーム

- ・県内主要ステークホルダーを動員する事業で、特に経済団体に対してのアプローチに手間取った。
 - ・実施主体のフードバンク信州の基盤が事務局長一人に頼る状態であり、システム構築を担う予定だったスタッフも受託直後にやめてしまい、全体像が描けない時期があった。

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

- ・コロナにおいて想定作業の変更、薬草栽培の遅延により、育苗の1年延期。
 - ・リーダーのアウトリーチ型引きこもり支援は評価が高く、行政も委託を始める。
 - ・障害者支援事業(B)も行い、マンパワー不足が見られる

飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット

—誰もがわいわい集まって人形劇をつくることを支援する—

- ・実施主体は人形劇フェス等の運営が本業で、市内のこども支援関係者も巻き込んだメンバー構成とし、駅裏の一軒家を拠点とし、定期的な人形劇ワークショップを行うが、コロナ禍もあり対象となる子どもたちの参集は振るわずにいた。

長野市 ICT学習支援官民協働事業

駅前商業者中心の組織と連携で開始、教育委員会も参加し、対象へのアプローチに期待。

- ・コロナにおいて、居場所に呼び込むことができなくなり、オンラインでの学習会へシフト。
 - ・情報リテラシーの高い家庭の参加が多く、対象者へのアプローチが出来ていない。

小海町 生きづらさのある市民の居場所づくり

- ・引きこもり支援、障害者支援、病院、行政といった多様な主体でそれぞれに事業を実施、成果も個別には上げているが、それらの事業の総合的なインパクトが見えてこない。
 - ・福祉分野支援と、休眠事業における目的(駅前の活性化等)の整合性が取れていない状況が見える。

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業 シイタケ栽培を核とした就労前準備支援。

- ・コロナで建築資材等の遅延
 - ・市の福祉等担当部署とも連携し、情報拡散を行うも、狙った対象者からのコンタクトが少ない。

伊那市 子どもの居場所とネットワーク推進事業

- ・コロナ禍でも居場所を開設し順調に実施。
 - ・事業から生まれる、想定外の活動のインパクトが大きい。
 - ・地域巻き込み力が大きい

状況 課題

長野市 食の循環、農業生産
経済的困難、ステークホルダー プットフォーム
・県内、連携不足、特に経済
団体による組織基盤が弱い
・実施主体、事務局長一人に頼
る状態であり、システム構築を担う予定だったスタッフも受
託直後にやめてしまい、全体像が描けない時期があった。

事業活動の変更 組織基盤が弱い

茅野市 働きづらさ
シタケ栽培を
・コロナで建築資
・市の福祉等担当
象者からのコンタ
コロナによる遅延
対象者への到達
、狙った対

対象者への到達



変化 伴走

長野市 食の循環システム構築事業

- ・県社協がこの事業に本格協働し始め、動きが加速、事業に信頼感が増した。

→環境づくり

- ・実施主体のフードバンク信州の支援を県、労福協等に要請、全県のフードバンク活動団体との連絡会議を県が音頭を取り実施、システム構築の意義と意味が前進した。

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

- ・リーダーのアウトリーチ型引きこもり支援は市に認知され、市の事業となった。

→波及効果

- ・対象者が安定して働き、それにより協業する農家が生まれる

・対象者の変化を伝える

長野市 ICT学習支援官民協働事業

- ・対象者でない人の参加多いことが評価で判明。
- ・強みであるICTを活用した学習支援に関して、こども支援団体をつなぎ、連携、協働が生まれている。

→環境づくり

団体同士の連携、協働によりアウトカム志向が高まる

飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット

- ・対象者へ支援を届けるため、アウトリーチを提案
- ・子どもの居場所をしている団体どうしをオンライン会議でつなげ、アウトリーチ先を設定準備する。
- ・居場所の子どもたちが人形劇にふれるための鑑賞会をみらい基金が共催。
- ・定期的な出張人形劇ワークショップが始まった。

→団体同士の連携、協働

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

- ・リーダーのアウトリーチ型引きこもり支援は市に認知され、市の事業となった。

→波及効果

- ・対象者が安定して働き、それにより協業する農家が生まれる

・対象者の変化を伝える

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業

- ・評価で相談、来場する対象者がほとんど中年であることが判明。その原因として、若者の引きこもりは親も健在であり、経済的危機感が少なく、親もある意味放置している。

→対象層の拡大

初期の事業対象者を若者としたが、8050を踏まえ、中年層まで幅を広げ対象層へアプローチする。

伊那市 子どもの居場所とネットワーク推進事業

- ・LGBTである講師が主催するリカバリーカレッジの開催や体験格差への多様な支援をスピード感ある展開が地域にインパクトを与えて

→座組、仕組みが生み出すインパクトを重視、志向の活動内容への変換、巻き込みへ注力。



変化 伴走

長野市 食の循環システム構築事業

- ・県社協がこの事業に意を用ひ、動きが加速、事業に信頼感が増す
- 環境づくり
- ・実施主体の法人化、労福協等に要請、全県の法人化活動団体との連絡会議を県が音頭を取り実施、システム構築の意義と意味が前進した。

連携
環境づくり

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

- ・リーダーのアウトプットによる評議は市に認知され、市の事業として位置づけられる
- 波及効果
- ・対象者が安定して活動する農家が生まれる
- ・対象者の変化を伝える

基盤強化
仕組みづくり

長野市 ICT学習支援官民協働事業

- ・対象者でない人のICTの知識が未だ判明。
- ・強みであるICTを活用して、こども支援団体をつなぐ
- 環境づくり
- 団体同士の連携、協働によりアウトカム志向が高まる。

連携
環境づくり

飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット

- ・対象者へ支援を届けるための支援を提案
- ・子どもの居場所をつくるためのイン会議でつなげ、アートを活用
- ・居場所の子どもたちのための鑑賞会をみらい基金が実施
- ・定期的な出張人形劇ワークショップが始まった。
- 団体同士の連携、協働

連携
環境づくり

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業

- ・評議で相談、来場する人が増加することが判明。その原因として、経済的危機感が少なく、親の年齢層が高まっている
- 対象層の拡大

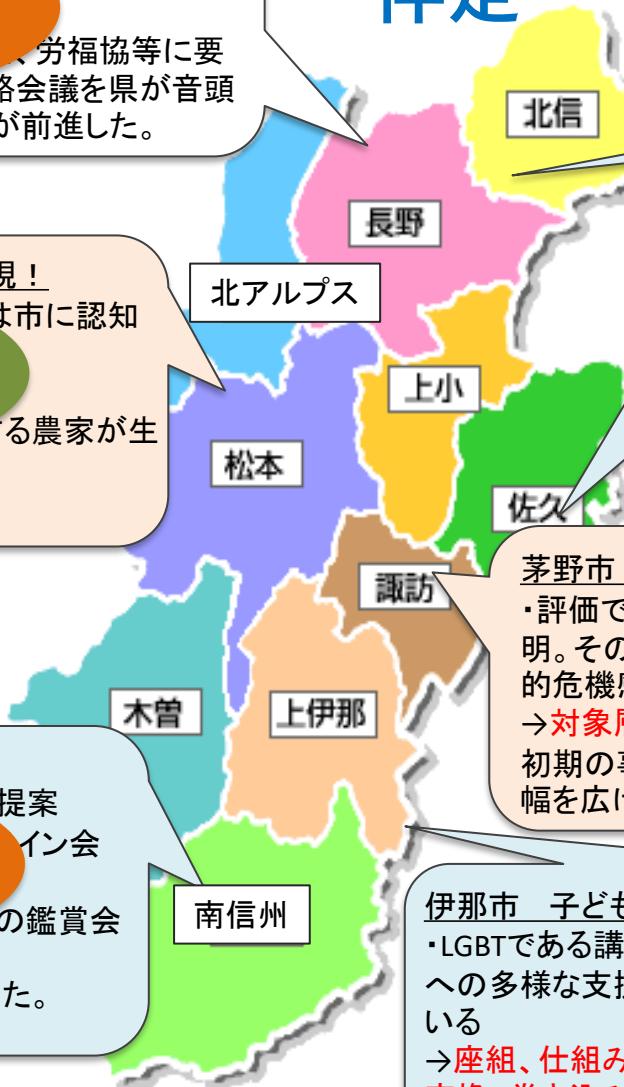
初期の事業対象者を若者としたが、8050を踏まえ、中年層まで幅を広げ対象層へアプローチする。

視点変換
仕組みづくり

伊那市 子どもの居場所づくり連携事業

- ・LGBTである講師が、LGBTQ+への多様な支援をしている
- 座組、仕組みが生み出すインパクトを重視、志向の活動内容への変換、巻き込みへ注力。

仕組みづくり



事後 出口

長野市 食の循環システム構築事業

アピール: 事業継続パートナーの出現

- ・システムの実装とそれを支える基盤づくり

→企業連携→運営主体の協業(県社協)

- ・入口の食品寄贈企業、出口の地区社協等への双方へのシステム前とトライアル後の比較をデータ化し、上記出口戦略の武器とする

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現!

アピール: ワークシェア的な新しい働き方

- ・対象者のナラティブな評価を見る化
→記録 広報

- ・困難を抱えた若者が多様な働き方で生きる道を見つける→ワークシェア的な働き着る環境づくり

→周辺地域の理解促進

→農福連携の可能性の増大

→インパクトの見える化とナラティブな評価づくり

飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット

アピール: 団体の連携による横展開・連携の実現

- ・対象者を待っている事業から、アウトリーチによって呼び込む、対象者へ飛び込む事業へ変換
- ・他の団体と連携事業が生まれる

長野市 ICT学習支援官民協働事業

アピール: 行政連携が生まれる 事業の充実

団体の連携による横展開・連携の実現

- ・アウトリーチとリアル支援のハイブリット事業への展開

小海町 生きづらさのある市民の居場所づくり

アピール: 福祉モデルから文化モデルへ

- ・駅での多様な主体の多様な活動が、地域活性化へのリンクとなる

→小学生、高校生参加という対象者、主体者の相互乗り入れ的な展開 アートへの展開

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業

アピール: ワークシェア的な新しい働き方

- ・事業モデルとして、助成後の継続力の確保

- ・短時間でのワークをシェアすることで、対象者への支援を継続

・補完する働き方を提案、移行することで事業が成立

南信州

松本

諏訪

佐久

上伊那

木曾

上小

北アルプス

長野

北信

伊那市 子どもの居場所とネットワーク推進事業

アピール: 体験格差への挑戦と実績

- ・スポーツ、ダンス、調理、製菓等学習支援でない支援の成果

→地域課題を見つけ異なる主体を巻き込みながら解決する手法を生み出す仕組み

事後 出口

長野市 食の循環システム構築事業
アピール:事業継続パートナーの出現
・シフ
・入
シフ
略の武器とする

事業継続

入口と出口 のデータ化

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現!
アピール:ワークシャーワークシャー的な新しい働き方
・対象者
・困
ける
→周辺地域の理解促進
→農福連携の可能性の増大
→インパクトの見える化とナラティブな評価づくり

新しい働き
方創出

対象者とその 関係者の変化

飯田市
アピール
・対象者
呼び込む
・他の団体と連携事業が生

アーツカウンシル
への提示

対象者とその 関係者の変化

長野市 ICT学習支援官民連携事業
アピール:行政連携による事業の拡大

個の事業から
連携の事業へ

アウトリーチ
先の変化

周辺環境の 変化

小海町 生きづらさの解消に向けた支援事業
アピール:福祉モデルから行政連携へ

駅の点から線、面
へ

対象者の 変化

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業
アピール:ワークシャー的な新しい働き方

見えにくかった
対象者層へアプローチ
→行政への提言

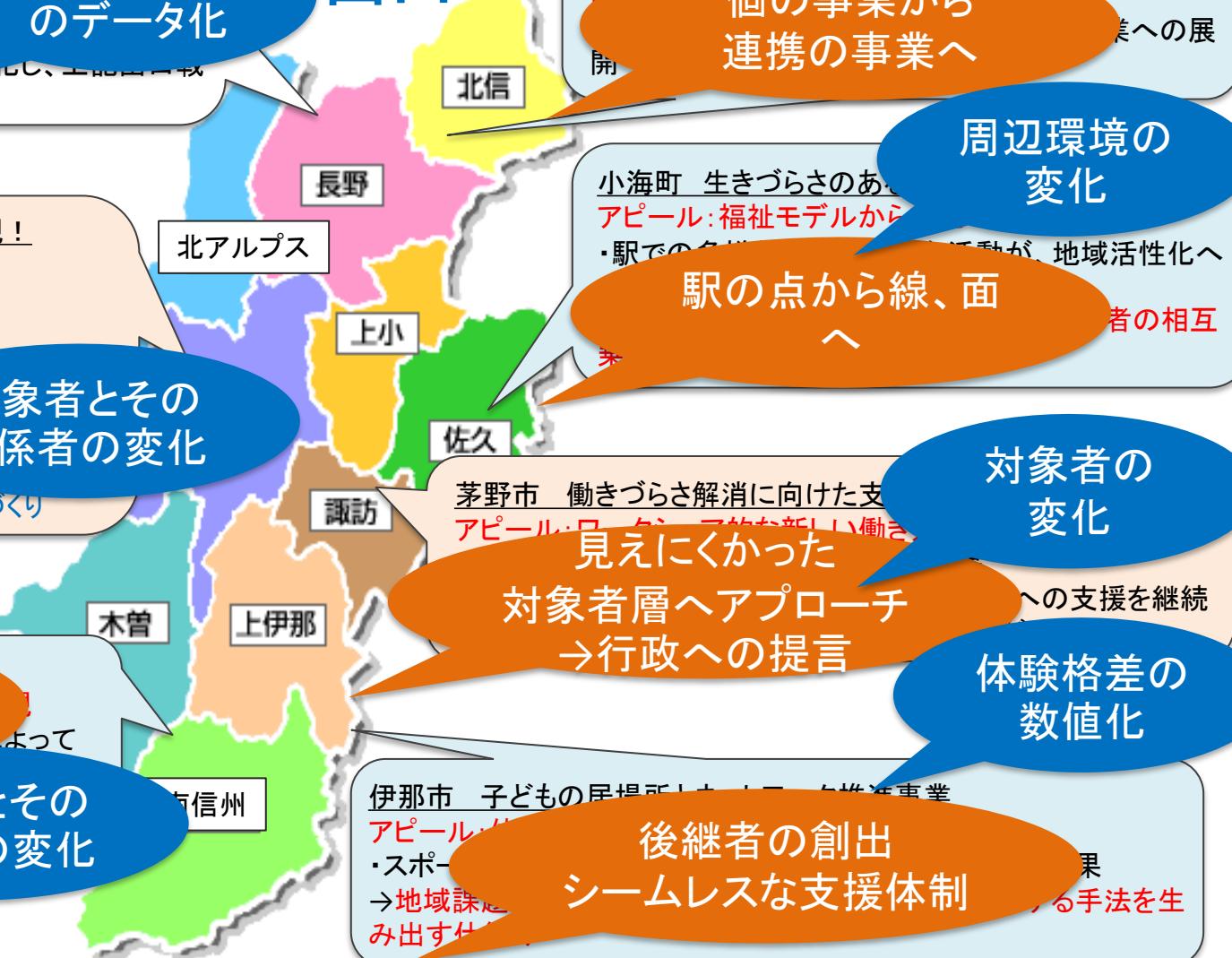
への支援を継続
体験格差の
数値化

後継者の創出
シームレスな支援体制

伊那市 子どもの居場所としての連携事業
アピール:連携事業

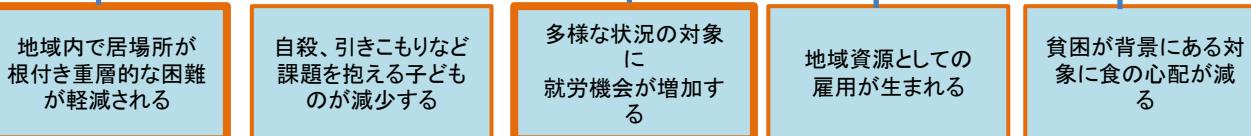
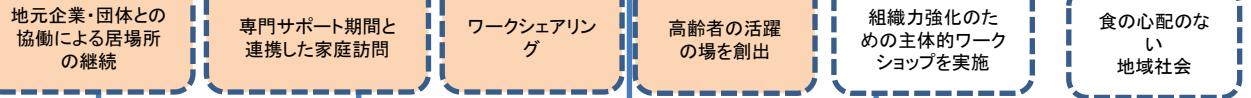
・スポ
→地域課題
み出す仕

ける手法を生



地域支援と地域資源の連携で若者層の自殺、引きこもり、学校への行きしぶりを減らす

困難を抱えたこども若者が孤立を感じない地域・社会になる



長野県は若年層の自殺率は全国一、引きこもりや学校への行きしぶりなどのこども若者の困難が生じている。

連携

対象者に地域の特性に沿ったサービスを提供している

ワークシェア

地域の産業と連携し、事業継続の機会ができる

地域の高齢者の知恵が居場所を支える

地域の食の循環システムができる

アウトリーチ

フードロスの啓蒙

実行団体に対する助成・伴走支援

各地域における支援体制を構築する

資金力、事務力、運営力を持つバックボーンオーガナイザーになる

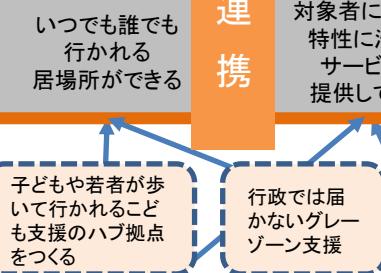
次のステップへのエコシステム構築連携セクターの意識改革

いくつもの居場所(拠点)をつなげる見える化(広報・資金)

事業継続への道筋と一緒に考える・足りない専門スキルを分析・経営分析

実行団体に対する連携・新たな資金提供

資金分配団体により地域支援団体とのコミュニケーション、連携先の選定



データを分析し必要に応じて、食事支援・学習支援・相談支援を開始

産業の指導役及び「地域」と「困難家庭」の橋渡し役

事業運営における経営力向上。地域内で協力者・賛同者を増やす

食循環システムへの参加が増える



地域に触れ一步踏み出すことのできる拠点づくり

働く体験のできる拠点をつくる

フードロスの啓蒙

実行団体に対する助成・伴走支援

地域のステークホルダー、資源等の把握連携への関係性構築



地域のステークホルダー、資源等の把握連携への関係性構築

実行団体に対する助成・伴走支援

地域のステークホルダー、資源等の把握連携への関係性構築

実行団体に対する助成・伴走支援

地域のステークホルダー、資源等の把握連携への関係性構築

みらい基金

団体目的
ビジョン

地域支援と地域資源の連携で若者層の自殺、引きこもり、学校への行きしぶりを減らす

中長期
アウトカム

困難を抱えたこども若者が孤立を感じない地域・社会になる

短期
アウトカム

地元企業・団体との
協働による居場所
の継続

専門サポート期間と
連携した家庭訪問

ワークシェアリング

高齢者の活躍
の場を創出

組織力強化のた
めの主体的ワーク
ショップを実施

食の心配のな
い
地域社会

資金力、事務力、運営力を持つ
バックボーンオーガナイザーになる

アウトプット

データを
に応じて
援・学習
支援を開
く

連
携

自分にあつた働きかたで働く
居場所

ワークシェア

事業の姿を多くの人が知る中で
地域周辺の人の考えが変わる

アウトーチ

事業のアウトカム対象が拡大する
新たなパートナーが生まれる

背景にある対
象の心配が減
る

実行団体に
対する連携・
新たな資金提供

各地域における
支援体制を
構築する

事業継続へ
の道筋を一
緒に考
る
・足りない
専門スキル
を分析
・経営分析

社会課題

長野県は若年層の自殺率は全国一、引きこもりや学校への行きしぶりなどのこども若者の困難が生じている。

子どもや
いて行か
も支援の
をつくる

行政では届
かないグレー
ゾーン支援

自宅外でいること
支援から働くことへ
の導入拠点を生み
出す

一歩踏
ことでき
ぐり

働く体
できる
をつく
る

地域の食の循環
システムができる

実行団体に
対する助成・
伴走支援

みらい基金

資金分配
団体により
地域支援
団体とのコ
ミュニケー
ション、連
携先の選
定

飯田
人形劇

銀の
かささぎ

ふくろう
SUWA

はみんぐ

ふれジョブ

グランド
リッシュ

地域のス
テークホル
ダー、資源
等の把握
連携への
関係性構
築

みらい基金

引きこもり

しうがい者

中間評価時の課題

1. 当初想定した受益層へのリーチが届かない
 - 貧困層、引きこもり、学習が慣習化できていない（遅延）層への学習支援（プログラミング）→情報リテラシーの高い親へ伝わり、ミドル以上の家庭の子がエントリーする
2. 当初想定していた受益層とは異なる層にリーチした場合に計画はどうあるべきか？（そのまま異なる層への事業を継続するか、当初想定層への新たなリーチを模索するか）
 - ふくろうSUWAの引きこもり若者層から中年層へシフト
3. 実行団体内部の担当業務へのコミットの適正量
 - 農福連携で農業作業が収益構造とリンクしている→リーダーのミッションへの希求と事務局長の現場の経営感覚のギャップ 例）グランリッシュ
4. 実行団体の地域への浸透
 - 中山間地の町には主体となる団体がなく、近隣の事業主体が活動している。プレーヤーとしての実施者（地元）と責任主体間の意思疎通、情報共有から地域への密着、連携度合いの温度差 例）ぶれじょぶ
5. 団体の目的と休眠事業の相違をどう埋めるか？
 - 休眠の事業のアウトカムと団体のミッションは基本同一方向だが、その指標や短期アウトカムは同じではないが、一緒くたになってしまう。
 - アウトプットも同じモチベーションで変更したくなる。
6. コレクティブインパクト（多機関連携）事業のアウトカムについて（バラエティ型助成）
 - いくつかの主体が集合して事業を行うものの、それぞれは自立して実施している。その総体としての価値創造がCIと考えるが、そこへ向かう道筋が作りきれないでいる
 - 複数事業の助成が短期アウトカムでは、多様だが中長期アウトカムにおいて結集する。

中間評価時のアピールポイント

1. コロナ枠・通常枠などの休眠事業だけでなく、当財団の関連団体との横の連携によるインパクト創出
 - フードバンク「食の循環見える化」は県社協とつなげる
 - ICT学習支援は長野市内の子どもの居場所と連携、休眠事業では伊那のはみんぐとオンラインの居場所づくりでディスカッション
 - いいだ人形劇は、県内の子どもの居場所運営団体（6団体）とオンラインでの趣旨説明及び座談会の開催
 - 実際の人形劇を知り触れてもらう鑑賞会、ワークショップの開催
 - アウトリーチの人形劇ワークショップ開催
2. 事業の振り返り、中間評価による事業計画の変化
 - 若者の引きこもり支援→80/50の中年層への引きこもり支援へ年齢層を拡大
 - 講師役となったLGBTの方からの動きで、幅広い困難への支援へとシフト→リカバリーカレッジ
3. 出口戦略として行政との連携を積極支援
 - アウトリーチ型引きこもり支援を安曇野市が制度として取り入れた
 - 経済的困窮家庭への住居提供を、旧重視年事業に引き継ぎ地区社協へ移譲（小海町）
4. 団体との関係性→頼られすぎないように、適正な距離感を保ちつつ伴走支援
 - 会計専任者、会計事務所への事務支援形成（2年目）